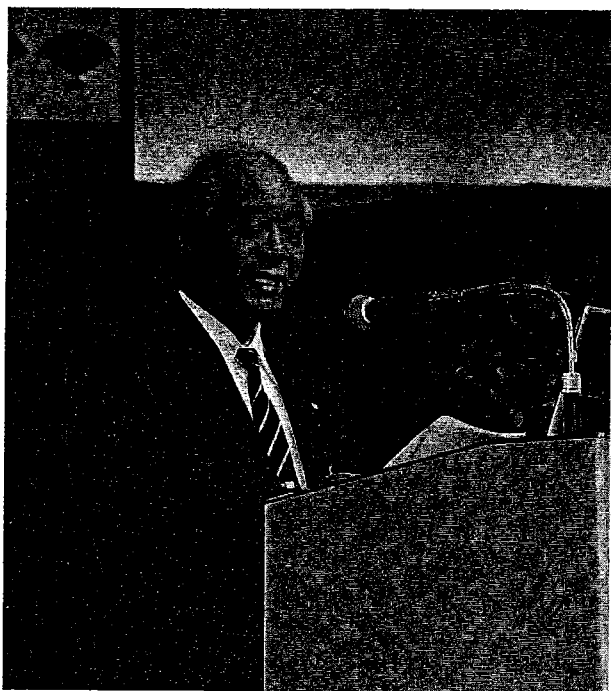


## 特別講演 1

# 「ポリオ撲滅運動に参加して： 西太平洋地域ではポリオ撲滅はできたのか」

宇治鳳凰R.C.

高橋 権也



私に与えられた演題は「西太平洋地域ではポリオ撲滅はできたのか」という大変重いものです。どこまで皆様にご納得いただけるかわかりませんが、今までの資料を整理して解説させていただきます。

2000年10月に京都で西太平洋地域ポリオ根絶京都会議が開催されました。この会議で西太平洋地域でのポリオ根絶が確認されました。根絶宣言はWHOが決めた基準に沿って決定されます。その基準によれば、3年間野性株による新しいポリオ発生がなければ、その地域でポリオが根絶されたとみなします。野生株とは昔からその地方でポリオの原因になっていた自然界のポリオウイルスです。野性株によらないポリオに2つの場合がありますので説明します。

ポリオワクチンはもともとの野性株を飼いならして、病原性はないが免疫を与える力は残っているという人工的な生きたウイルスが使われています。厄介なことにこのウイルスは投与された後、子供たちの腸管内で突然変異を起こしてふたたび病原性を

もってしまうという現象があります。100万回～200万回に1回あるといわれています。このウイルスが周囲の子供たちを発病させては大変なので、周囲の子供たちも同時に免疫を獲得していなければなりません。そのため、ワクチンはその国の5歳以下の子供たち全員に一齐に投与されます。

もう一つは輸入株の問題です。現代のように激しい人の動きがあると、他の国からポリオウイルスが入ってきます。中国では'93年から全国一齐投与が行われ、全国の8,000万人以上の子供たちにワクチンが投与されました。その結果、中国固有の野性株ポリオは'94年以降発生していません。しかし西太平洋地域のポリオ根絶がまじかにせまった'99年秋、中国内陸部の青海省で1歳半の男の子にポリオが発生しました。DNA鑑定の結果、このウイルスは北インドから来た輸入株と判明しましたので根絶宣言を出すことができました。幸いなことに青海省では周囲への広がりはありませんでした。もし周囲の子供たちにポリオの免疫がなければ、広がってしまうところでした。根絶宣言が出されても、地球上からポリオが根絶されない限りポリオワクチンの投与を続けなくてはなりません。日本では'80年以降、ポリオは発生していませんが、毎年ワクチンの投与は続けられています。根絶宣言を信頼のあるものにするには、“本当にポリオの発生が無かった”という証明が大切です。この証明は正確なサーベイランスによってなされます。

サーベイランスとはポリオが発生したか否かを見張る仕組みです。まずポリオとよく似た急性弛緩性マヒ(AFP)の患者を見つけ出す仕事から始まります。AFPの患者が発生すると、その患者の便を検査機関に送って、ポリオウイルスか否かを決定し

ます。AFPはどの地方でも一定の人口に対して一定の割合で発生しますので、報告されたAFPの患者の数でポリオのサーベイランスが的確に行われているか否かを検証することができます。西太平洋地域では根絶宣言後も精力的にこのサーベイランスを実施していますが、多額の費用がかかります。ロータリークラブの援助資金はこのような地味な作業のためにも貢献しています。たとえ地球上での根絶宣言が出されても、その後長く続くサーベイランスにまだまだ多額のお金が必要です。

さてここでポリオという病気とその歴史を振り返ってみましょう。ポリオは小児に多発しますので、小児麻痺と言いつわられています。脳に障害があって発生する脳性小児麻痺と区別するために、脊髄性小児麻痺というのが正しい呼び方です。学術的には急性灰白髄炎です。英語の正式な名前はPoliomyelitisですから略してポリオといっています。

ウイルス性の感染症で口から感染します。重い風邪かと思っていると、熱が下がった後に手足の麻痺に気づくという深刻な病気です。SARSと同じように感染力が強く、死亡率もSARSと同じように10%ぐらいあります。しかしSARSとの大きな違いは、ポリオの場合、たとえ助かっても麻痺が残ります。

ポリオは20世紀にはいつ、おおきな流行が時々起っています。1916年ニューヨークで大流行があり、2万7,000人が麻痺を起こし、9,000人が死亡しました。最近では'89年と'90年に中国で1万人の子供たちがポリオに感染しています。日本では、終戦後は毎年2,000人から4,000人発生していました。

日本での最後の大流行は昭和35年でした。この年日本全国で多数の患者が発生しました。最大の流行は6月、北海道の夕張市でした。

当時日本で使われていたポリオワクチンは、不活化ワクチンといって殺菌して病原性をなくしたウイルスを使ったワクチンでした。しかしこのワクチン効きが悪くて、ポリオはどんどん広がっていきました。この年の患者数は5,606人でした。こどもを持つお母さん達の間で大きなパニックがおこりました。

その頃ソ連やカナダでは病原性がない生きたウイ

ルス株を使った口から投与する生ワクチンが実用化されて効果をあげていました。当時このワクチンを使うことには国内の専門家の間では、いろいろな反対がありました。医薬品としてまだ国が承認していないワクチンだったからです。しかし厚生省は世論の声に押されて、超法規的な計らいで、全国の子供たちに投与することに決定しました。

ソ連とカナダから合計1,300万人分を緊急輸入しました。輸入されたワクチンはその年の7月、10歳未満の子供たちに1ヶ月という短期間で一斉投与しました。その結果は目を見張るものでした。患者はみるみる減っていきました。

日本でのポリオ患者は1960年(昭和35年)をピークに、輸入ワクチン投与で患者数は激減しました。その後は国産の生ワクチンが使用されましたが、患者数は減少を続け、'80年には野性株によるポリオは根絶しました。日本政府は自国の経験を生かして技術の面からも資金の面からも世界のポリオ根絶に向けて大きな働きをしてきました。

'88年WHO総会は2000年までに世界からポリオを根絶する目標を掲げました。一方、国際ロータリーは'82年、ポリオプラスの活動を開始しました。この活動はご存知のように、世界中の子供たちにポリオワクチンを投与して、ロータリー創立100周年に当たる2005年までにこの地球上からポリオを撲滅させるという壮大な目標でした。WHOとの協力関係が成立してからは、このプロジェクトは一気に加速されました。

10年前、西太平洋地域では6,000人のポリオが報告されていました。しかし、専門家によれば当時のサーベイランスは不十分で、実際にはポリオは10倍の6万人に上っていたと考えられています。最大の発生国は中国でした。対象となる子供の数だけで8,000万人います。とても根絶は不可能と思われました。しかしWHOや日本政府の援助と中国政府の必死の努力で、全国一斉投与を実施しました。その結果、中国では'94年を最後にポリオの発生は見られなくなりました。大成功でした。この成功はアジアの周辺国々を勇気づけ、全国一斉投与が広く取り入れられる契機になりました。

2650地区ではワクチン投与の資金援助に加えて、'95年より毎年ミッションを組織して会員が途上国の子供たちに直接ワクチンを投与してきました。カンボジア、モンゴル、ネパール、ラオス、ベトナム、中国雲南省、ミャンマーの国々です。今年は再びカンボジアでした。私たちの実際の仕事は大海の一滴ですが、途上国の人々にポリオと戦う勇気を与えることができた、私たちは考えています。もちろんロータリーの資金援助はWHOに大きく評価されました。公的資金では使えないきめの細かい有効な使い方ができたからです。

WHOが全世界で、この事業のために使った資金の主なドナーは日本のODA、国際ロータリー、米国のCDC、オーストラリア政府、UNICEFの順です。

西太平洋地域(WPRO)では日本政府と並んでロータリーは大きなドナーになっています。ワクチン購入費約5,000万ドルの内23%、ワクチン投与活動のための費用2,500万ドルの内20%がロータリーの負担分で、2650地区の寄付金はこの中にふくまれています。

1988年にWHOが根絶に向けて活動を開始した年は地球上すべての大陸でポリオが発生していました。それから15年目の2002年には7カ国に減りました。

すでに南北アメリカ大陸では'94年に、欧州では2001年に根絶宣言がだされました。西太平洋地域では'97年のカンボジアでの発生が最後でした。しかし中国での輸入例に見られますように、まだまだ油断できません。

全世界の患者数の推移を見ますと、ワクチン投与後順調に減少してきました。それでも1994年以降、毎年4,000人~6,000人発生していました。2000年に入って患者数は激減し、2000年は719人、2001年は483人と減っています。昨年はいよいよ0になると期待されていました。ところが逆に1,925人と増加してしまいました。インドがだんぜんトップで、全世界の83%を占めています。2003年6月現在で全世界でのポリオ患者は183人です。インドでは今のところ84人に抑えられています。しかし毎年インドでは夏場に患者が増えますので、まだまだ増加すると思われま

す。2005年の根絶宣言は不可能になりました。しかしここで手を抜いては今までの苦労は水の泡です。退くわけにはいきません。

今までの話でお分かりのように、インドでの根絶が地球上での根絶につながりますので、ここでインドにおけるポリオ根絶の現状をご紹介します。

インド政府は96年、初めて全国一斉投与を実施しました。5歳未満の子供たち1億3,000万人が対象でした。その後現在も全国一斉投与、重点地域を選んだ投与、家から家を回って投与するなど、繰り返し投与を続けています。

昨年発生した患者の57%は総人口の10~15%を占めるイスラム教徒の家族でした。患者のポリオワクチン接種歴を調べますと、56%がワクチンを受けていないか、不完全接種でした。インドでの根絶活動は今もたくさんの課題を抱えています。

インド周辺国のネパール、バングラデッシュ、ミャンマーは質の高いサーベイランスシステムを維持すると同時に、ポリオキャンペーンを繰り返しています。これらの国では2000年以降、野生株ポリオは発生していません。今ポリオが発生している世界7カ国も、同じ努力を続けることで2005年は無理としても、近いうちに根絶に成功すると私は信じています。

1980年WHOはこの地球上での天然痘の根絶を宣言しました。これは人類が一つの大きな病気をこの地球上から消滅させることに成功したという最初の記念すべき宣言でした。一つの病原体をこの地球上から消滅させることは至難の業です。しかし生ワクチンの開発という科学技術と、官民一体となった息の長い協力を通して、“一つの大きな病原体をこの地球上から根絶させることができる”というモデルを示すことは、それにも増して重要なことです。私たちはこの名誉ある事業に参加できた喜びを一緒に分かち合いたいと思います。